

## ネパールを通して多様性について考える

学校所在府県：兵庫県

学校名：明石市立明石商業高等学校

名前：西 真末（外国語）

実践教科：国際理解

指導時数：7 時間

対象学年：高等学校 2 年生

対象人数：38 人（国際会計科 1 クラス）

### 1. 教師海外研修を通して感じたこと

この研修で私はたくさんのものでたとえている。もちろん、ネパールに関する知識や情報が一番である。自分が体験してみて初めて知ったことがたくさんあり、生徒達にはそれに近い形で体験させたいと考えた。百聞は一見に如かず、である。

また、これ以外にも得たものはたくさんある。そのうちの1つは近畿圏で国際理解教育に携わっている先生方との繋がりがた。研修中、先生方と色んな議論を通して新しい視点に気づくことがたくさん出来た。異校種・他教科の教員が集まって話をする自分にはない意見がたくさん出てきた。きっと生徒たちの中にも自分にはない視点や考えがあるのだろうと思った。生徒たちには、授業実践を通してネパールに関する知識だけでなく、そういった多様な物の見方を認め・受け入れる姿勢も身に付けてもらいたい。

### 2. カリキュラム

#### (1) 実践の目的・背景

本校国際会計科の生徒はオーストラリアや台湾からの修学旅行生と交流を行ったり、クラスでアメリカ人留学生を受け入れていることから、文化の多様性について実践を通して認識している。しかし、彼らにとっての「海外」とは欧米諸国や他の先進諸国を表す。実践教科である国際理解においては「アクティブラーニングを通して世界の現状を知り、気づいた課題に対して当事者意識を持って考え、行動に移す力を養う」ことを目標としており、本実践においてはまずネパールに焦点を当てた開発途上国の現状を伝えることを目的とした。そこから「知る」⇒「気付く」⇒「考える」⇒「行動する」までを達成できるよう取り組んだ。体験教育の観点から、近隣の大学よりネパール人留学生を本校に招き、授業を受ける中で生徒たちの中に出てきた疑問を直接聞くなどして、実際にネパール人と交流する機会も設けた。また修学旅行で訪問したマレーシアの高校ではマレーシアやインド、中国の高校生を相手に「今までで一番高い買い物は」「100万円あったら何をしますか」「幸せとは何だと思いますか」などの質問をいくつかして、自分たちの答えと比べることにより、自分たちとの感覚の違い、また多様性に気づいた。

#### (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
ネパールに触れよう	●クラスに掲示されたネパールでの写真約40枚を通してネパールの様子を知る。	●写真
1 時限目 ネパールを知る *ネパールに関する基礎知識を学ぶ。	●教室に掲示された写真から、ネパールのイメージや日本との違いを書く。 ●写真から想像できるネパールでの問題点を考える。	●ワークシート（資料1） ●写真／動画 ●ネパールの物

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>2時限目</b> ネパールの交通事情 *動画や写真からネパールの交通事情を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3枚の写真からネパールの交通事情について知る。</li> <li>● ネパールにおける交通事情の問題点を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワークシート</li> <li>● 写真／動画</li> </ul>
<b>3時限目</b> ネパールにおける多様性 *民族・宗教の多様性を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 7時限目で予定している交流に向けて、ネパールの民族・宗教・習慣について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 写真／動画</li> <li>● 個別タブレット</li> </ul>
<b>4時限目</b> 豊かさとは① *ネパールの高校生の考えを知り、自分の考えと比較する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 用意された質問に答える。</li> <li>● 教員がネパール滞在中に、現地の高校生に行なった質問とその答えを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワークシート（資料2）</li> <li>● 写真</li> </ul>
<b>5時限目</b> 豊かさとは② *マレーシアで多国籍の高校生（マレーシア、インド、中国など）の考えを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上記と同じ質問をマレーシアの高校でする。</li> <li>● マレーシアで得た答えと自分たちの考えの違いについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワークシート（資料3）</li> </ul>
<b>6時限目</b> ※3学期実施予定 私たちに出来ること *グローバル社会における自分の役割について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グローバル社会の定義について考える。</li> <li>● 様々な違いや気付きを通して自分に出来ることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワークシート</li> <li>● パワーポイント</li> </ul>
<b>7時限目</b> ネパール人と交流しよう *授業の中で持ったネパールに関する疑問をネパール人に直接聞いてみる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 明石市と本校の紹介。</li> <li>● ネパール人留学生よりネパールの紹介。</li> <li>● 本校生徒よりネパール人留学生に質問。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パワーポイント</li> </ul>

### 3. 授業の詳細

#### 1 時限目：ネパールを知る

ねらい…ネパールに関する知識を身に付ける。

##### ◆内容◆

- ① ネパールのイメージについて、写真を見て自分たちが抱いた印象を書く。
- ② 写真から、日本との違いについて知る。
- ③ ②で書いた「違い」に対して自分が持つ印象を書く。
- ④ 写真から、ネパールではどのような問題が生まれると考えられるかを想像し、意見を交換し合う。
- ⑤ ネパールやその他途上国について知りたいことを考える。



教室に掲示した写真たち

##### ！ココがポイント

生徒の中に負のイメージや固定概念を植え付けることがないように写真の説明をする。

##### 生徒の反応

- ▶ 初めて見るネパールの現状に驚きを隠せない様子であった。
- ▶ ネパールに関する疑問が次から次に湧いてきていた。

## 生徒の感想

- ▶ テレビで途上国を見たことはあったがどこか遠い国のこと、というイメージが強かった。先生が写真の中に写っているのを見て、ネパールが少し身近に感じた。
- ▶ ネパールや発展途上国は悪いところばかりが目につくけれど、その国で暮らしている人々はどこか幸せそうな笑顔をしている気がします！
- ▶ 日本ではありえないことがネパールでは当たり前なこともあるのだと思いました。

◆所感◆ 事前に教室の壁に写真を貼ったことにより休み時間などに友達同士で写真を見ていたようで、スムーズに導入を図ることが出来た。貼った写真には最低限の説明を書いていたが、授業で写真を見せながら補足説明を入れたことで「なるほど！」という感覚が生徒の中に生まれているのが分かった。授業時は、ワークシートの書き込みを一気に終わらせるのではなくペアで意見をシェアしながら授業を進めたことで、当初はあまりネパールに興味を持っていなかった生徒も少しずつ興味を持ち始めた様子が見受けられた。

## 2時限目：ネパールの交通事情

ねらい…交通事情に焦点を当ててネパールの現状を知るとともに、ネパールが抱える問題を認識する。

- ◆内容◆
- ① 教師からネパールの交通事情を聞き、印象的なことを3つ書く。
  - ② ①について、日本との違いを比べる。
  - ③ どうすれば①で挙げたことがなくなるかを考える。
  - ④ ③の方法でうまくいくかを考える。
  - ⑤ ④で得た答えに対してどのような手立てがあるかを考える。

## 生徒の反応

- ▶ 信号が消えている写真を見せた時は「えー！」と声が上がった。
- ▶ 道路に牛が寝転んでいる写真を見て、開いた口が塞がらないといった様子であった。

## 生徒の感想

- ▶ 助け合いの精神をどうすればネパール人の中に育てられるのが課題だと思いました。
  - ▶ 人の常識を変えるのは本当に難しい！
- ネパールの交通事情を良くするには？**
- ▶ 学校で道徳を学ぶ時間を作る。
  - ▶ 大人の意見や常識を変える事は難しいので子供の教育を変える。
  - ▶ ネパールに合ったルールを作る。
  - ▶ 道路を整備する。

◆所感◆ 日本との比較においては、交通という身近なテーマだったからこそたくさん意見が出ていた。最初はネパールの交通事情を否定する声が多かったが、話し合いを重ねていくうちにネパールの現状を鑑みて、否定するのではなく現状への解決策を考える流れになった。

## 3時限目：ネパールにおける多様性

ねらい…ネパールの民族や宗教における多様性を理解し、受け入れる。

- ◆内容◆
- ① クマリについて知る。
  - ② ネパールの宗教や民族について学ぶ。
  - ③ 自分が気になった民族や宗教についてタブレットで調べ、最後にクラスで発表する。

## 生徒の感想

- ▶ 宗教や民族が違えばこんなにも環境が変わるのかと思いました。今自分は専門学校に行ってパティシエになりたいと思うけど、ネパールで生まれていたらその夢ももしかしたら叶えられないかもしれないと思いました。交流の時にどんな民族の人が来るか分からないけれど、失礼のないように交流したいです。

◆所感◆ 普段あまり馴染みのないテーマだったので最初は難しそうに考えていたようだが、クマリに関する動画を見せたら、イメージが湧いてきたようだった。7時限目にネパール人との交流授業をする予定であったので、宗教や民族に関する背景知識はきちんと教えておきたいと思っていた。少しずつネパールの現状、日本とは大きく違う点について理解してきており、初見の情報に関しても受け入れよう、という姿勢が随所に見受けられた。

## 4時限目：豊かさとは①

ねらい…異文化における同世代間の考え方の違いを知り、違いを受け入れる。

### ◆内容◆

- ① 自分たちがまず5つの質問に答える
  - (1) 「100万円あったら何をするか」
  - (2) 「人生で一番大きな買い物は？（何か、いくらか）」
  - (3) 「人生において最も重要なものは何か」
  - (4) 「幸せとは／どんな時に幸せを感じるか」
  - (5) 「悲しみとは／どんな時に悲しく感じるか」
- ② パトリケット村に住むネパール人高校生 (Ramesh Tamang) のこれらの質問に対する答えを聞く。
- ③ Ramesh の考えを聞いて自分の答えと比較する。



ネパール人高校生 Ramesh

### Ramesh (16歳 男子高校生 医学部志望) の答え

- (1) 病院を開設し、村の人に free treatment をしてあげる。もしお金が余れば養蜂場（父の勤務先）に勤める人に無償で教育を提供する
- (2) 兄の結婚式のために買ってもらった 12000 ルピーのスーツ（約 12000 円）
- (3) 家族
- (4) “Sharing” 自分が持っているものを誰かに分け与える事
- (5) “When I see something wrong.” 何か間違っただけのものや行動を見た時

### 本校生徒の答え

- (1) 好きなものを爆買い、余れば貯金／全額貯金／貯金しつつショッピングモールへ走る
- (2) 小型テレビ（3万円）／カメラ（5万円）／母へのプレゼント（値段忘れた）／ライブグッズ（4万円）
- (3) 友達や家族／助け合い／周りの人々／明るく生きること／お金
- (4) 家族団らんの時／自分の好きなことをしている時／皆で笑いあっている時／寝る時／しんどい時に支えてくれる人がいると感じた時
- (5) 大切な人がいなくなった時／ケンカをした時／勉強している時／金欠になった時／一生懸命努力したことが結果としてうまくいかなかった時／誰かを傷つけてしまった時／大切なものが壊れた時

## 本校アメリカ人留学生 (Issabella Marsh 17歳 ジャーナリスト志望) の答え

- (1) 家族のために使う
- (2) 日本への留学資金の一部 (80万円はアメリカでアルバイトをして貯めた)
- (3) 幸せであること
- (4) 日本で生活していると実感した時 (日本への留学は彼女の長年の夢でした)
- (5) 差別や弱者に対する批判を見た時

◆所感◆ 生徒達の中に具体性を持たせるために、兄の結婚式でスーツを着ている Ramesh の写真を見せた。自分たちと何ら変わらない同年代の人の考え方の違いについて少し驚きがあったようだったが、写真を見ることで親近感が湧いていたように見受けられた。

## 5時限目：豊かさとは②

ねらい…マレーシアで多国籍の高校生 (マレーシア、インド、中国など) の考えを知る。

### ◆内容◆

- ① 修学旅行で学校交流をしたマレーシアのジョホールバルにある「REAL Schools」で、同年代のバディに対して上記の5つの質問をする。
- ② 自分の答えとネパール人 Ramesh Tamang と本校留学生 Issabella Marsh の答えと比較する。



マレーシア人高校生に質問をする生徒達

## REAL School 高校生の答え

- (1) 父を助ける／家を買う／家族を日本に連れて行く／買い物をする／両親にあげる／慈善団体に寄付する／彼女と遊ぶ
- (2) インドの伝統衣装 (6000円) / スマホ (2万円) / オートバイ (24万円) / バッシュ (2万7千円)
- (3) 家族／友達／彼女／お金／落ち着き／自分の人生／健康でいること／サッカー
- (4) 他人の問題を解決するのを助けた時／行事を祝う時／お金がある時／試合に勝った時／試験が終わった時／新しいことを学んだ時
- (5) 友達に裏切られた時／家族がいなくなった時／病気にかかった時／友達が悲しい時／失恋した時

### 生徒の感想

- ▶ 人生で最も大切なものはやはり一緒だと思います。でも「家族」という答えが出てくるのにとっても時間が掛かっていて、何と迷っていたのだらうと思っていました。
- ▶ 100万円を使って何がしたいか聞いたときに日本に来たいと言ってくれたのがとても嬉しかった。目の前の人自分が興味を持っていてくれるというのはすごく嬉しいことだと思った。

## 6時限目：私たちに出来ること

ねらい…グローバル社会における自分の役割について考える。

### ◆内容◆

- ① 交流を通して触れた多様性に気づく。
- ② クラスメートと意見をシェアする。
- ③ 違いを受け入れ、尊重するためにはどうすれば良いか考える。
- ④ 自分たちに出来る事を考える。

## 7 時限目：ネパール人と交流しよう

ねらい…ネパール人との交流を通じて  
ネパールを身近に感じる。



ネパール人留学生を招いて

### ◆内容◆

- ① ネパール人に明石市・本校の紹介をする。
- ② ネパール人からネパールの紹介を受ける。
- ③ ネパール人に質問をする（グループ活動）。

### 質問項目と答え

- ・ネパールのいいところは？⇒人が優しい
- ・日本に来て驚いたことは？⇒道路からの騒音があまりなく静かなところ、リンゴの値段が1個 120 円もすること
- ・好きな日本語は何ですか？⇒「香」という漢字
- ・ネパールの高校生はどんな遊びをしますか？⇒ピクニック、川遊び
- ・日本に来て自分自身で変わったことは？⇒時間を守ろうと思うようになった

◆所感◆ 生徒達は実際にネパール人を目の前にすることで、ネパールを身近に感じているようであった。体験教育の重要性を身に染みて感じた。

## 4. 成果

1 番の成果は、異文化交流を通して生徒たちが直接様々な「違い」に触られたことだ。ネパール人 Ramesh、本校留学生 Issabella、そして修学旅行先のマレーシアでバディに対して、自分が受けた同じ質問を、バックグラウンドの違う彼らがどのように答えるのかということをもっと体験させることが出来た。またネパールに関して言えば、ネパールという国を通して開発途上国やそこに住む人についての理解を深めさせると共に、生徒がそれらの国や人を身近に感じるようになったことが成果だと考える。何故ならば、人は見えない相手のことよりも見える相手・知っている相手に対しては当事者性を持って行動することが出来るからである。それを私自身特に感じたのが、ネパール人との交流の後、生徒からネパールに関する質問がどんどん出てきた時である。もちろん、交流授業の前にもネパールに関するかなりの情報を生徒たちに伝えていた。しかし、ネパール人との交流を通して、彼らの中でのネパールが自分と関係するものとして認識され、自分ごととして考えられるようになってきたのである。私自身、昨年度より本校において国際理解教育を担当しているが、国際理解や開発教育に対する概念は少しずつ変わってきたように思う。国際理解と聞けばすごく大きなことのように思い、当初は自分に出来ることなんてないだろうと思っていた。しかし今はそうではない。多様なものの見方、違いを受け入れる、相手の宗教や文化を尊重する、そしてそこで見つけた問題に対して考え、行動する、これが今の私が考える国際理解である。教育者として、グローバル人材を育てるという立場にある身として、今回の学びや気づきを念頭に置いて今後の教育活動を行なっていきたいと思っている。

## 5. 課題

研修に行く前の事前準備が足りなかったことがまず1つ課題である。もし研修に出る前の自分にアドバイスが出来るなら、生徒たちのネパールに対する興味や知りたいことをもっと掘り下げておくべきだ、と言いたい。また、帰国後の授業実践についても、着地点があやふやなままネパールに行ってしまったので、授業としては色んなことに手を出してしまった感が否めない。結果として、広く浅く生徒たちに伝えられたのかもしれないが、来年度以降の授業ではもう少し焦点を明確に絞って生徒たちにフィードバックしていきたいと考える。本校では国際理解の授業において、来年度以降もネパールに焦点を当てて開発途上国の現状を伝えていきたいと考えている。しかし、3年後、4年後と全く同じ教材を使って授業をするのではなく、情報や内容についてもアップデートしていかなければならない。ここは、教師である自分自身への課題だと考える。